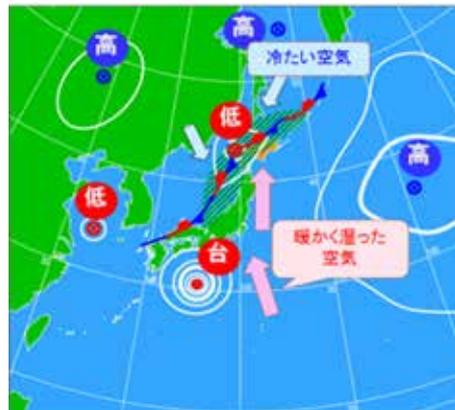


台風+前線は大雨パターン

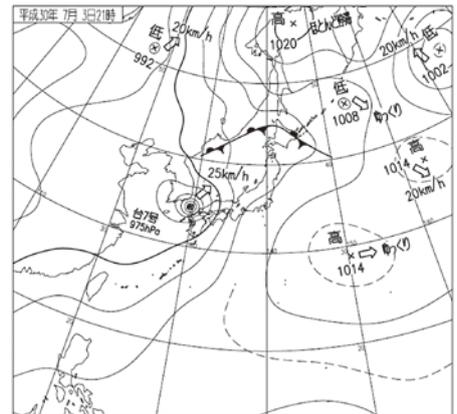
台風は7月から10月にかけて最も多く発生し、強い風や雨により大きな災害をもたらします。平成28年8月には、観測史上初めて3つの台風が次々北海道に上陸したほか、台風第10号の接近による大雨で甚大な被害が発生しています。また、北海道付近に前線が停滞しているところに南から台風が北上してくると、台風の周辺から水蒸気を大量に含んだ暖かく湿った空気が送り込まれて前線の活動が活発になり、前線による大雨とその後の台風本体による大雨が長時間続きます。今年7月初めには北海道付近に停滞する前線と台風第7号の影響により、上川・留萌・空知地方を中心に大きな被害が発生しました。

気象庁では3日先までの台風予報、その先も引き続き台風であると予想される場合には5日先までの台風の進路を発表しています。

台風進路予想の確認はもちろんのこと、北海道に前線が停滞している場合には、「台風+前線は大雨パターン」として捉え、気象台が発表する防災気象情報に注意しながら、大雨に備えた準備が必要です。



北海道で大雨となるときの天気図の例



平成30年7月3日21時の天気図

お問い合わせ先：稚内地方気象台（月～金曜日） 電話：0162-23-2679

地域おこし協力隊通信

vol.33

今年は日本各地で、低温・大雨・猛暑と異常気象と呼ばれる状況が続きました。それに比べると幌延は穏やかな天候ですね。

今年のノースガーデンのブルーピーポーは、昨年からの花壇担当の人たちの努力の甲斐あって、6月初旬から7月中旬までたくさんの花が咲き続けました。花に関する問い合わせにも、自信を持って観に来てくだ



ノースガーデンの花たち
(けしとデルフィニウム)



ださいと答えられるほどでした。7月からは、昨年来の雑草からの救出作戦が功を奏して、7月後半の一週間、昨年に続いてビジターセンター木道でのホタル観察会を行いました。今年は、7月までの長雨・低温のせいか、ホタルの出現時期は1週間ほど遅く、観察会初日には見ることができず、数日にわたって観察に来られた方もいらっしゃいました。期間中のホタルの観察数も例年に比べて少なく、



木道上のヘイケボタル

参加された方たちと一緒に、まるで宝探しをするようにホタルを探し、生息していることが確認できました。観察会終了後もしばらく観察を続けましたが、それほど数は増えていません。成虫の数が少ないと来年のホタルの出現が気になります。右の画像は吉原隊員が昼間木道散歩中に会ったホタルです。頭部の模様からヘイケボタルだと確認できます。

屋内に閉じこもっていても、自然のようす、幌延の良いところは、なかなか気付くことができません。皆さんも外に出て、まちを散歩しましょう。そして気付いたことがあったら、駅にある「ホロカル」までご連絡ください。

地域おこし協力隊 丸田